

## 令和元年度 吉野ヶ里町立三田川中学校 学校評価計画

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
ゆたかに自律 たくましく自立 一知徳体の調和のとれた人間性豊かな、実践力に富む生徒の育成	① 授業における指導法の工夫・改善及び家庭学習の定着を図り、学力向上を目指す。 ② 基本的な生活習慣の定着。 ③ 豊かな心と望ましい人間関係を育む生徒指導を行う。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①授業における指導法の工夫・改善及び家庭学習の定着を図り、学力向上を目指す。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○教職員の資質向上	・校内研修の充実 ・研究授業、授業研究会の充実 ・若手職員の育成	・三田川中学校の考える「活用力」を生かした校内研修の充実 ・研究授業サポート会の実践 ・県教育センター研修講座を全員受講する ・若手職員の指導・支援をととして全職員の力量の向上をはかる	・言語活動を仕組んだ研究授業を実施し、「既習事項生かして課題を解決する力」「根拠を明らかにして説明する力」を育成する。 ・授業改善に向けて職員による授業公開を推進し、全教職員でサポートする(研究授業サポート会)。 ・県教育センターの研修講座を全教職員受講する。 ・教職経験3年未満の職員にベテラン職員を担当させ、率先垂範して授業や学級経営等の力量を伸ばすために、日々指導・助言を行う。	研修	教頭
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・授業で「めあて」を明示し、「振り返り」の時間を設けると共に、知識を活用した授業を推進する。 ・授業の振り返りを実施し「わかった」「自分でできた」と評価する生徒70%以上にする。	・定期テストで、全教科で「知識・理解」の内容で60%以上の正答率を達成する。 ・毎回の授業で、「めあて」を達成するための課題を提示し、生徒の活発な活動を促す。また、「説明」「話し合う」活動を実践するために相互学習型グループ活動に取り組ませる。	校内研究部	堤峯山崎
教育活動	●学力向上	・基礎的・基本的内容の確実な定着を目指した指導方法の改善 ・家庭学習の定着 ・少人数・TT授業の推進 ・積極的なICT活用	・県学習状況調査の結果を各教科で分析し、課題把握と課題解決に向けた取組を行う。 ・1週間の家庭学習の平均時間が各学年の決めた時間の実施率を80%以上を目指す。 ・質と量を考えた宿題の工夫。 ・個に応じたきめ細かな指導を行う。 ・電子黒板や書画カメラ、タブレットPCなどICT機器の積極的な有効活用を行う。	・調査の結果について、講師を招聘し分析会を行い、授業改善を実施する。 ・自主学習ノートの活用の仕方を指導し、家庭学習の充実を図るとともに、生徒が復習など家庭学習に取り組みやすいように、各教科で宿題の内容や出し方を工夫する。 ・数学や英語の授業では、全学年全クラスでTTを実施。個別指導を継続的に実施する。 ・サポート会などでより効果的なICT機器の利活用について話し合う。	教務	藤瀬 碓吉 武鶴田
GG						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○基本的な生活習慣の定着	・「きちんとした挨拶・返事」からの基本的な生活習慣の定着 ・授業3分前着席及び授業前の「立腰」の実践	・「挨拶・返事・校歌、日本一！」という合言葉による指導の徹底 ・授業3分前の着席率を100%にする。	・折あるごとに「返事・挨拶・校歌」について職員・生徒が呼びかけを行い、集会時に評価し、改善し高めていく。 ・生徒会と連携して、朝のあいさつ運動を行う。 ・授業3分前の着席、「立腰」の呼びかけを総務等が行い学習の構えを作る。	生徒指導	山崎中田
教育活動	○校内の環境美化	・整理整頓に心がけ、学習面・情緒面での成長を促進 ・UD教育の実践	・学習に取り組むしやすいように、整理整頓に心がけ、安全に配慮した教室、学校環境を整える。 ・UD教育を推進し、どの生徒も過ごしやす教室環境に努める。	・落ち着いた学校生活につながるよう、学習面、心の面の伸長を促す掲示物を計画的に掲示する。 ・生徒会など生徒の活動が見える掲示を積極的にを行い生徒を賞賛する機会を増やす。 ・学習障害を抱える生徒に配慮し、掲示物や教室環境のレイアウトを工夫する。	校内研究部	堤峯山崎
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標、学校経営ビジョン、本年度の重点目標の周知 ・生徒指導委員会を核として、組織的な指導体制を構築する。	・教職員、生徒、保護者への周知を図り、特に、保護者の「学校教育目標」の認知度を70%以上にする。	・職員会議、全校集会、保護者会、学校HPで周知を図る。具体的な取組を学校便りや校内の掲示物等で知らせる。 ・「ゆたかに自律・たくましく自立」を促す取組を進め、教職員の生徒に対する指導・支援の在り方を、事例研修をもとに実践し見直す。	教務	教頭
教育活動	●心の教育	・ゆたかな心を育む道徳教育 ・ふれあい道徳の実施	・居心地のよい学級集団作りを行う。 ・朝の会や帰りの会、様々な集いに積極的に参加させる。 ・「ふれあい道徳」として、道徳の授業を地域や保護者に年1回(6月)公開する。	・QUの結果をもとに個別の支援を行い、学級満足群のポイントを上げる。 ・生徒が主体的に活動する学級活動及び人権週間の活動を計画・実施する。 ・「ふれあい道徳」の授業案内を保護者・地域の方々に広報し、道徳の授業への理解を深めてもらい、家庭・地域での教育力の向上につなげる。	道徳教育	鶴田
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい生活習慣の形成 ・けが・事故防止 ・生徒の体づくり	・朝食摂取率を95%以上にする。 ・睡眠時間8時間以上を80%以上にする。 ・病気、けが等による保健室利用者数を昨年度より5%減らす。 ・スポーツテストの結果が県の平均値を上回る。	・生活習慣調査を行い、結果をまとめた個々の改善点を見直す。 ・「保健便り」「給食便り」で食事、睡眠、休養等の大切さを生徒保護者に伝える。 ・授業の準備運動の中で、上体起こし、握力をつけるようにストレッチングと筋力トレーニングを取り入れる。 ・昼休みに多くの生徒がグラウンドで運動ができるようにボールなどの用具を充実させる。	保健体育	大石
教育活動	○生徒指導体制の構築	・生徒の変化を見逃さない観察(早期発見、早期解決) ・生徒の問題解決に向け同一指導、共通実践を図る ・開発的生徒指導(出番・役割・承認)を推進	・いじめ、問題行動等への、適切な初期対応 ・情報の共有化を通して生徒理解と共通実践の徹底を図る。 ・生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を生かし、安全・安心して居心地の良い学校づくりを行う	・「花咲カード(3点固定)」により家庭生活の安定を図り、「ネットワーク5原則」の遵守によりネットトラブルやネット依存を防ぐ。 ・学校行事や授業、係活動等で、生徒の「出番」「役割」「承認」の場面をつくり、を育成する。 ・「グリーンカード制度」を導入し、生徒の日常の良い活動に対して教師がコメントして掲示し、称賛・承認する。	生徒指導	山崎中田 大石平川
教育活動	○生徒理解	・組織的な不登校対策 ・特別支援教育の充実 ・生徒会活動の活性化	・不登校生徒の状況を改善する ・教育相談活動の充実と組織的な取組 ・特別支援教育コーディネーターを中心に組織的・計画的に個別の支援計画を実施 ・生徒の主体的活動	・「生活アンケート(週1回)」を実施し、早期発見した事案をその日のうちに解決していく。 ・SCやSSWとの連携を密にする。 ・個別支援計画に基づき支援や面談を繰り返し行い、生徒、保護者との意思疎通を図る。また、進路の実現に向け計画的に支援を実施する。 ・学校行事や授業、係活動等で、生徒の「出番」「役割」「承認」の場面をつくり、自己決定・自己存在感・共感的人間関係を育成する。	生徒指導・教育相談	山崎中田 千々岩上野坂本
教育活動	●いじめの問題への対応	・いじめの予防と早期発見、適切な対応 ・職員の共通理解の促進	・定期教育相談や定期的な生活アンケートを実施し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決を図る。 ・連絡掲示板(毎日)に状況をまとめ、共通理解する ・情報交換連絡会(週1回)連絡掲示板の情報について、職員朝会で対応の仕方を確認する。	・毎週の生活アンケートで、予防及び早期発見を行う。 ・Q-U(年2回)で、生徒の状況を把握し、個に応じた指導を行う。 ・毎週1回情報交換の場を設け、共通理解を図る。 ・関係機関との連携を図って対応にあたり、保護者や地域との信頼関係を高める。 ・学校行事や生徒会活動で生徒がより主体的に取り組む場を用意させ、共感的人間関係づくりを進める。また、生徒自らがいじめ撲滅への取り組みができるようにする。(本校の生徒会による「いじめゼロ宣言」を活用する。)	生徒指導	山崎中田
教育活動	○人権・同和教育の推進	・生命や人権を尊重する人権・同和教育の推進	・お互いを尊重しあえる仲間づくり ・いじめ防止、仲間づくりに関する指導の工夫 ・自己肯定感を高め自尊感情の芽生えを促す取組 ・同和問題学習の充実	・職員研修の充実化を図り、職員の人権意識を高める。 ・生徒の個性や発達段階に留意して、適切な教育内容を編成し、指導の充実を図る。 ・グリーンカードの実施や承認の機会を多く行うなどして、自信を持たせ自尊感情を高めさせる。 ・平和集会や人権集会を通して、命の大切さや人権意識を高めさせる。	人権同和教育	北村
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・長時間労働の解消 ・業務改善と環境整備に向けた取組 ・より適切な部活動の在り方 ・健康管理体制の充実	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比15%削減する。	・教職員の在勤時間の実態をパソコンにより正確に把握する。また、定時退勤日を呼びかけ、実施を徹底する。 ・会議の回数削減や時間短縮、定時終了を目指す。 ・学校行事や校内の諸会議の精選、効率化に努める。また、校務分掌の平準化に努める。 ・事務職員理の学校経営への参画を進める。 ・「部活動休養日」を履行する。 ・複数の顧問を配置したり、地域の社会体育や外部指導員を活用し教職員の負担軽減を図る。 ・管理職は時間外勤務が多い教職員に対する産業医(学校医)による面接を奨励する。 ・悩みなど相談しやすい職場づくりに努め、職場環境の改善に努める。	教務	教頭
学校運営	○開かれた学校づくり	・保護者・地域へのフリー参観デーの実施 ・PTA活動との連携 ・家庭・地域との連携 ・学校教育活動の情報発信	・授業参観、フリー参観デー、学期末PTAなどへの参加率が40%を越える。 ・PTA専門部会との連携を図る。 ・学校HP、学校情報メールの充実	・学校便りに地域にも回覧する。 ・フリー参観デー及びフリー参観週間を開催し、保護者だけでなく地域の方にも案内し、参加してもらおう。 ・PTA活動に教職員の協力体制の充実を図る。 ・地区懇談会や町の青少年健全育成会議へ参加する。 ・活用度の高い学校HPを作成する。	PTA	教頭

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目